

令和3年度「学術変革領域研究（B）」新規採択研究領域  
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	21B103	領域略称名	身体性経済学
研究領域名	デジタル身体性経済学の創成		
領域代表者名 (所属等)	犬飼 佳吾（明治学院大学・経済学部・准教授）		

（応募領域の研究概要）

本領域では、身体の情報の時空間を超えて流通する次世代情報通信環境における人々の社会経済的意思決定を、延約1万人規模の大規模生態学的ライフログ研究、脳科学実験、扱うべき身体性情報の検討作業を中心に、行動経済学、心理学、脳科学、情報学を有機的に融合したアプローチによって検討するデジタル身体性経済学を学術変革領域としてあらたに提唱する。

（審査結果の所見）

本研究領域は身体情報がデジタル時空間を縦横に流通する状況において、身体性情報と身体間接続環境が生み出す人間行動原理の解明を目指すものである。本研究は行動経済学、脳科学、身体性情報ネットワークの三つに分かれており、それぞれが相互に連携し合う形で研究計画が立てられている。身体情報のシェアが個の自律性を維持しつつ「しなやかな紐帯」へと至る制度設計を行うことを目的としている。

本研究領域は経済学の土台の上に、身体情報という新たな情報が加わることによって、人間行動がどのように変異するのか、またどのように情報を使えば、人間同士が身体的な多様性を受容して、利他的社会を形成していくことが可能になるのかを究めようとするものであり、今後の展開が期待される。